

知事と区市町村長との意見交換（港区）

令和元年 10 月 21 日（月）

15 時 40 分～16 時 00 分

○行政部長 それでは早速ではございますが、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 どうも、こんにちは。また次の台風が来ているみたいなんですがね。本日はお忙しいところ、都庁まで御足労お掛けいたしております。恐縮でございます。また、都政運営等々いろいろとお世話になっております。ありがとうございます。

長期戦略を描くというこの段階で、皆さま方からの直接の御意見、ビジョン等を伺っているところでございます。ましてや昨日、残念ながらラグビーの方は日本チーム負けてしまいましたが、この後も続きますし、また来年の 2020 の様々な準備もでございます。どうぞ、そういった点も含めまして、御意見をお聞かせいただきますよう、よろしくをお願いいたします。

○行政部長 それでは武井区長、よろしくをお願いいたします。

○港区長 それではお時間も限られております。早速説明をさせていただきますが、まず大変お忙しい、また台風の被害も都内である中、こういったお時間をとっていただいて本当にありがとうございます。

港区ですので、私の方からは江戸前の海の復活に向けてということで、環境問題を中心に御要望させていただきたいと思っております。

まず具体的に、都の長期戦略ビジョンへの要望といたしまして、まず河川や海の水質改善、もう一つ舟運の活性化ということについて、2 点お話をさせていただきたいと思っております。

私ども港区のお台場でトライアスロン競技が開催されることになりまして、お台場の水質に関心が向いているところなんですけれども、元々お台場というのは大変環境も優れた所で、海洋生物も多く生息し、区民の皆さん、都民の皆さんの憩いの場として親しまれ、都心にはめずらしいということで大変魅力的な海浜環境であるということは、これは間違いないことでございまして、これを契機にさらにお台場の海、ひいては東京湾全体の環境の改善のために思い切った舵を切っていただきたい。

そしてまた東京の海洋自然は、伊豆諸島から小笠原諸島まで広く及んでおりますし、また溪流美、あるいは都市の河川景観等、大変水辺での都の親水性というものが高いところでもございますので、そうした特徴をおおいに活かしていただきたいというふうに思っております。

具体的に項目としましては、ここにいくつか掲げましたけども、下水道の問題や雨水の貯留施設の問題、あるいは都民、事業者の方への啓発によって協力をいただくことも大変重要でございます。

関係自治体、これは都内の自治体との、私どもでも雨水の貯留の流出抑制の浸透枳の設置等についての助成も行っておりますけど、これも東京都がリードしていただいております。

すけれども、都内の自治体と、あるいは周辺自治体との関係というものも大変大事なものとなって、後ほどまたお話をさせていただきます。

そして近年、大変問題となっております、マイクロプラスチックの問題についても海洋環境に大きく影響を及ぼすものでございます。

そして1つ具体的には、泳げる海お台場への主体的な参画というのは、こういう表現でございすけれども、区としては地元としてこれまで区民とともに取り組んでまいりました、お台場は都立の海洋公園でもあります。それを管理するお立場で一緒に取り組んでいただければというふうに思っているところでございます。

今一つは舟運の活性化。これは河川や運河や海水面の利用で、都民の日常生活の利便性をより高めることができますし、また、水辺関係の関心を高めることにも繋がることになろうと思っております。

では具体的にお話をさせていただきたいと思います。まず、私どもの台場の海における水辺の賑わいと、これまでの取り組みについて、いくつか御紹介をさせていただきます。

お台場プラージュというのは夏にやっております、海水浴です。これはパリで2024年のオリンピック、パラリンピック大会でセーナ川でトライアスロン競技をするということでイダルゴ市長が、泳げるセーナを復活するというふうにおっしゃいました。

私共も泳げるお台場を目指しております。連携を強めまして、パリの夏の風物詩になっておりますパリプラージュを模して、お台場プラージュとして連携をして、多くの方にこれまでにない海水浴場として楽しんでいただいているものです。

右にいきますと、東京ベイクリーンアップ大作戦。これはお台場のまちが出来たのは平成の8年からなんですけれども、その時から地元の皆さんが、これは東京港を泳げる海にというスローガン掲げて、毎年毎年、年に3回から4回、多くの方が参加をしていただいております。

これは住民だけでなく企業の方、あるいは観光客の方、皆さんに参加をしていただいています、これも効果を上げております。

また、お台場では海苔をつくっております。これから寒い時期にかけて植えて、年明けに収穫をして、これは子供達がこれに携わっております。

そして右下にあります、これお台場学園。中・高一貫校があるんですけども、そこにセーリングヨット部というのをつくりました。海辺に面しているという環境を活かしまして、今大変な人気の部になっております。

こうしたように、台場の海は皆さんに親しまれて、そしてまた地域の皆さんの大事な水辺として、今も多くの方が訪れて活用していただいているところです。

お台場の海の状況なんですけれども、大変生物も生息しております。これまでいろいろな形で水質改善の御努力を重ねていただいた結果でもあります。場所によっては100種類以上の海洋生物や魚類も発見、そこで観測をされております。大変多様性に富んだ、今も海としてあるわけでございます。

そして、またその延長上には東京湾を越えて神津島。これは伊豆諸島で、ここの砂をお

台場の海浜公園に運んでいただいて、綺麗な景観をつくっていただいておりますけども、また小笠原諸島とずっと繋がっていく、その象徴的な場所ともなるんじゃないかというふうに考えております。

一方で水質の問題で話題になりますけれども、実は台場は以前は木場として使われてた一時期がございまして、海底に材木等が沈んでおります。これが港湾局さんが船着き場をつくる時に、浚渫した時に海底から出た木材なんですけども、この時でもおおよそ160本の木材が発見されたと、今もこういう状態でございますので、海底の状況がこうであるということは、参考にお話をさせていただきたいと思っております。

私どもは水質調査をやっておりまして、多くの雨が降る時に一時的に水質が悪くなるということで、海水浴をやります時にも予測システムを、今、東京大学の先生と共同で研究をしているわけですが、大体1年を通じていい水質が続いているんですけども、時として雨が降った後、2、3日後に、こう数値が跳ね上がるという状況がございまして。

これの原因の一つとしては、合流式下水道からの越流水の放流。また、簡易処理水ですね、下水で完全に処理できなかったものを簡易処理で放流しているというものが、その原因の一つであろうというふうにも言われているものでございます。これは合流式の下水を早くから整備をしております東京の地域性を表したものと考えておりまして、またこれも芝浦の水再生センターが港区にありますけども、そこだけのことでなくて、砂町の水再生センターでありますとか、葛西の水再生センターですとか、そういう所にも共通した課題となっております。

もう1つ、東京湾に流入している河川を見ますと、これもほぼ関東一円に渡っておりまして、先ほどの下水の越流水等は局地的なものでございますけども、やはり流域全体の河川環境というものが東京湾の水質や環境に大きな影響を与えているものだろうと思っております。

今、森が海を育てるということは、皆さんによく知られたことでございますので、そうした意味からも、関東近辺の流域の県との連携も大事になってくるのではないかと考えております。

東京、神奈川の下水の普及率はおよそ100%に近いんですけども、県によってはバラつきがあると、これはもちろん国も含めて対策を進めていただきたいというところでございますけれども、こうした点でも東京都がリードをしていただけないかというふうに思っております。

次は、これは九都県市の首脳会議の取り組みで、元年6月の首都圏環境宣言を踏まえまして、九都県市として共同で水環境について考えるという取り組みもしていただいております。

もう1つは小池知事がリードを取っていただいております、全国知事会の中で国産木材の活用プロジェクトチームを立ち上げていただいております、写真を使わせていただきましたけれども、これは森林資源を有する地域との連携、共同で木材活用して環境問題に共同で取り組んでいくという、大変素晴らしい試みであると思っておりますが、こういうものも、ひい

ては海洋環境にも大きな関連性のあるものでございまして、グローバルな取り組みとして大きなものになると思います。

そしてもう1つ、今話題になっております、マイクロプラスチックですけれども、この画面にありますのがお台場で採取したマイクロプラスチックの一部です。また、砂浜でもこういうものが見えます。マイクロプラスチックが科学物質を吸着するという性質があって、生き物の植物連鎖で有害な化学物質がどんどん濃縮されてしまうという、そういうものもあるようでございます。

これはお台場の砂にあったということで、お台場の由来であるのか、元々その砂に含まれていたのかということは、私どもの段階では分かりませんが、いずれにしても、東京都の地域での海洋環境の中でこうした現象が起きているということは、今、間違いのないこととございます。

区といたしましても、廃プラスチックの発生抑制に向けた取り組みとして、啓発活動をしたり、あるいはマイバックの利用促進をしたり、あるいは代替製品、そういうものの可能性を研究しているところでありますし、先ほどの森林資源を有する自治体との連携の中でも、需要ができることで製品、新しい工夫も生み出されるのではないかと考えております。

木材を食物由来の製品でプラスチックに置き換えるということが、さらに進んでいくのではないかとこのように思っております。

最後に舟運の活用でございますけれども、東京都でも今、舟運の活用について積極的に取り組んでいただいておりますが、これは鉄道やバスと同じで、日常の足として使うためには、やはり目的地に近い所に駅があり、バス停がありというような形で、やはり船着き場の整備が、物理的にこれから課題になってくるのではないかとこのように思っております。

防災船着き場をまた転用する、共用するというのもあるのではないかとこのようにも、考えているわけでございます。

こうしたものを総合的に進めていただきまして、地球環境を解決するための東京都が力強い行動をしているということ、全世界にアピールをしていただき、そしてその成果をもたらしていただければというふうに願っているものでございます。どうぞよろしくお願いいたします。長くなりました。

○知事 ありがとうございます。環境に大変熱心に取り組んでいただいていることに、まず敬意を表したく存じます。その上で、東京2020大会に向けての様々な地域の御協力を改めて感謝申し上げます。増上寺のそばの区立の公園等も、まさしくディーマットで準備をしていただく等、これまでの大変な御協力に東京都として感謝を申し上げます。

それから水質の問題で注目されたわけですが、水再生センター等での貯留施設をさらに20万リューベ、整備しております、大会の開催までには累計しますと140万リューベの整備が完了することになります。

それから大会開催までに対策が必要な合流式の水再生センターが6か所ございますが、この汚濁物を2倍程度多く除去することが可能になります。高速濾過施設の整備が完了す

ることになります。

それからお台場周辺海域の放流口が2か所ございますが、ここからのごみを流出を防ぐためにスクリーンネットを設置する等々、これは大会開催前までに完了もさせるところであります。

それから汚泥の浚渫については、木材がそれだけ埋まっているというお話もございました。結局、東京港内の運河部で汚泥の堆積状況であるとか、周辺市街地におけます生活環境等に応じて、計画的に汚泥の浚渫を実施してきたと。今後も引き続き、着実な実施をしてまいるといふことであります。

東京湾の再生ですけれども、それぞれ関係する霞が関だったり、自治体等多々あるわけでございます、東京湾の再生推進会議が国にも設置をされております。そのような場も通じまして、それぞれ連携をして取り組みを進めていきたいと思っております。

それから国際的にも話題になっております、海洋へのプラスチック流出ゼロでございますが、都でもこのプラスチック利用の在り方、そもそも大きく見直していく必要があるということから、10月に東京都の廃棄物審議会の方からプラスチックの持続可能な利用に向けた施策の在り方ということで、最終答申を受けまして、海洋プラスチック問題等の解決へ向けて、目指すべき姿が提示されております。

その中でワンウェイプラスチックの削減であるとか、再生プラスチックやバイオマス等で代替品の利用促進についても、御意見をいただいたところでございます。

ちなみに、東京水なんですけれども、これまでペットボトルで提供していたんですが、隼より始めようということ、何度も使える形になっております。

やはり都民に、また区民に呼び掛けるという時は、そういったことも必要なのかなと考えております。年内を目途にしまして、このプラスチック削減プログラム策定いたしまして進めてまいります。

それから国産木材の活用についても、このところの豪雨や土砂崩れ、それから停電。木が倒れて倒木による、あれも木が腐っていると、なんやかんや言われてますけれども、やはり手入れをするというためには経済そのものから動かすという根本的をあてて、全国知事会で提言をさせていただいております。

やはり戦後に植えてきた植林が成木になって、もう70歳になるというところですから、逆に言えば切り時であります。それをだから一石二鳥ではなくて、一木、何て言うんでしょうか。急には出てきませんが、やはり治山治水という言葉は、政治でも行政でも基礎だと思っておりますが、改めて今回の千曲川の状況を見ましても、東京都内でもいくつか被害も出ております。それらを考えると、一番基本中の基本であると。

その意味では木材の活用もそうですし、それから下水等の対策をどうしていくのかというのは、とても基本的な話でありますので、いろいろ連携を取らせていただこうと思っております。

それから舟運についてのお話もございまして、江戸の歴史を振り返りますと、舟運でもってこれだけ江戸が栄えてきたということでございます。

2016年度から2か年に渡って、新規航路の開拓ということで社会実験を行ってまいりました。お台場の周遊等、3つの航路で民間事業者と一緒に運行が開始されまして、それらを踏まえて、今年度は朝の交通手段としての舟運活用と。その可能性に対しての検討実施をいたしました。ちょうどスムーズビズ集中取り組み期間中ということもあって、いい調査運行のタイミングではなかったかなと思います。

これからもっと認知度を高めるということからPR、それから船着き場周辺での地域の観光資源と連携した賑わいの創出であるとか、舟運の利便性向上に向けた取り組みも実施をしていきたいと思います。

ニューヨークでもハドソン川をずっと活用して、あとスタテン島とって、例の自由の女神の所とか、ざっとあの辺は船が結んでいるんですね。

○港区長 水辺から見る景色って違いますものね。

○知事 違いますよね。橋が美しいと思ったりね。

○港区長 下から見ることもないですから。

○知事 上を通っていると分かんないですけども、そういう意味で今日はいろんな点からお考えを聞かせていただきました。本当にありがとうございます。いろいろ連携をさせていただこうと思います。

○行政部長 すいません。そろそろお時間になります。もし何かありましたら、お願いいたします。

○港区長 丁寧なお話いただきまして、ありがとうございます。連携という意味でも、下水の貯留施設や高速ろ過施設も積極的に取り組んでいただいて。

区の方も都と役割分担の中でも、雨水の抑制のために貯留施設等を民間にお願いをしてつくっています。その実績を言いますと、今まで20万立米ぐらい、民間のその事業所の協力を得て開発の時に設けてもらったりですね。

それは古川の下に調整池を大きなもの設けてもらいまして、今回も威力を発揮していただきましたけども、あれのもう1.5倍ぐらいのそれが民間開発の中でやはり整備されているという、大きいものもどかっと効果がありますけども、小規模のものも多くつくっていただければ、これは流域全体もそうなんですけども、効果も発揮するものと思っております。

こういった面でも役割分担の中で、区は区の中の地域の中で皆さんの協力をいただきながら進めていけることも数多くあると思いますので、これからもぜひよろしくお願いをいたします。

○行政部長 最後に知事、一言お願いいたします。

○知事 ありがとうございます。今日は環境を中心にお話いただきましたが、待機児童の方もゼロということで、いろいろ御努力いただいております。こちらの方についても、今後とも連携取らせていただこうと思いますし、外国人比率も高いというところで、ダイバーシティ台場を体現しておられると思います。これからもどうぞよろしくお願いをいたします。ありがとうございました。

○港区長 ありがとうございました。

○知事 意見交換を終わらせていただきます。ありがとうございました。